

国債市場へのマクロ情報の影響のティック・データによる分析

課題番号 16530206

平成16～18年度科学研究費補助金
(基盤研究C)研究成果報告書

平成19年3月

研究代表者

釜江 廣志
(一橋大学大学院商学研究科教授)

はしがき

近年、わが国の国債市場は未曾有の大量発行・大量流通が続いており、流通市場のパフォーマンスに注目が集まっている。本研究は、わが国国債先物に対してマクロ経済情報がいかに影響を与えているかを探るとともに、マーケット・マイクロストラクチャの観点から、東証における国債先物市場の取引制度と価格形成の関係を明らかにすることを試みた。その際、主としてティック（高頻度）データを用い、計量経済学の方法によって分析を行った。

内容は以下のとおりである。

第1章 わが国国債先物市場の効率性

第2章 日本の国債市場のマーケット・マイクロストラクチャ

第3章 日本国債先物取引の市場間比較

本研究の研究組織は、研究代表者：釜江廣志（一橋大学大学院商学研究科教授）であり、研究経費は平成16年度1600千円、17年度600千円、18年度500千円、計2700千円である。

学会誌等への研究発表はつぎのとおりである。

「わが国国債先物市場の効率性：ティック・データによる検証」

『生活経済学研究』第20巻、2004年9月、21-45（皆木健男と共同）

「日本の国債市場のマーケット・マイクロストラクチャ」

『一橋論叢』第134巻第5号、2005年11月、40-57。（皆木健男と共同）

「日本国債先物取引の市場間比較：マイクロストラクチャ・アプローチ」

『一橋商学論叢』第1巻第1号、2006年5月、38-52。（皆木健男と共同）。

口頭発表は次のとおりである。

「GARCHによるわが国国債市場の効率性の検証」

生活経済学会第20回全国大会、2004年6月13日（皆木健男と共同）

「国債市場のマーケット・マイクロストラクチャ」

生活経済学会関東部会、2004年10月8日（皆木健男と共同）

「日本国債先物取引の市場間比較 —マイクロストラクチャ・アプローチ—」

生活経済学会第21回全国大会、2005年5月14日（皆木健男と共同）。

皆木健男北星学園大学専任講師の助力を感謝する。